

第29回 非開削技術講演会を 開催しました



金子 謙二
KANEKO Kenji

(社)日本非開削技術協会
事務局長

2022年7月27日、第29回非開削技術講演会を品川シー
ズンテラスカンファレンス（東京都港区）において開催し
ました。

新型コロナウイルス感染拡大第7波の中ではありましたが、会場においては、定員（178名）に対して入場者を半分程度に制限するなどの感染防止対策を実施し、Zoomウェ
ビナーによる配信も行うハイブリッド方式にて開催し、90
名弱のご参加を頂きました。

今回の講演会では、国土交通省水管理・国土保全局下水
道部の令和4年度予算の柱として、国土強靱化に加えてデ
ジタル化と脱炭素が加わったことを受けて、「デジタル化・
脱炭素と非開削技術の関わり」をテーマとして掲げ、3つ
の講演を頂くことができました。

(1) 「AIとデータ統合を活用したインフラ高度化への アプローチ」

東京大学大学院 工学系研究科 総合研究機構
i-Construction システム学寄付講座 特任准教授
全邦釘 様

i-Construction をテーマとした第26回非開削技術講演会
(2019年)に続いて再登壇をお願いいたしました。

今回はAIの研究開発と活用の実態について、多くの事
例を交えながらご紹介頂きました。

日常生活においてもAIの成果が活かされていることを
感じる機会が増えていますが、インフラの業界における
AI活用への期待感が増す内容について、親しみやすく分
かりやすいお話とともにご講演頂きました。

(2) 「下水道事業の最近の話題（予算、下水道DX、 マネジメントサイクル、地球温暖化対策）」

国土交通省 水管理・国土保全局 下水道部
下水道事業課 事業マネジメント推進室長
石崎隆弘 様

講演会のテーマ設定のキッカケにもさせて頂きました
が、国の下水道事業の戦略とそれを実現するための予算に
ついて、全体像をわかりやすく解説して頂きました。下水
道事業との関わりが深い聴講者が多い中で、今後のビジネ
スの方向性を見極めるうえで、多くの気づきを得られる内
容でした。

(3) 「世界の潮流『脱炭素化』に伴う社会変革の要請と その対応」

公益社団法人 日本下水道協会 企画部長
奥野修平 様

横浜市は2050年までに脱炭素化を目指す「Zero Carbon
Yokohama」を宣言していますが、今春まで横浜市温暖化
対策統括本部の副本部長として、脱炭素化とSDGsに取り
組まれたご経験を中心にご講演を頂きました。

必要性を感じつつも、何をなすべきかを捉えづらい脱炭
素化ですが、これが全てのビジネスの前提条件となる時代
が到来する予感と、これをビジネスチャンスとして前向き
に捉えようとするお話は、聴講者にとって自分事として考
える機会となりました。

開会・閉会では、森田弘昭会長、森治郎技術委員長から
の挨拶があり、コロナ禍においても、Webと対面の良いと
ころを追及して並存させながら、各行事を絶やすことなく
継続すること、今後とも会員のみなさまに面白い話題、面
白い切り口のお話を提供していく、との挨拶がありました。

聴講者のみなさまから寄せられたアンケートには、今聞
きたい内容を分かりやすく聞くことが出来、参考になった
との声を多く頂いており、事務局としても大変うれしく感
じているところであります。

今回の講演会開催にあたっては、講師のみなさま、当協
会技術委員会をはじめ、多くの関係者のみなさまの支援に
より、無事に開催することが出来ました。この場を借りて
御礼申し上げます。

最後になりますが、前回に引き続き、品川シーズンテラ
スカンファレンスを会場に選び、講演会を開催させて頂き
ました。最寄駅から徒歩数分という距離ではありますが、
炎天下の中、多くのみなさまに会場まで足をお運び頂きま
してありがとうございました。

当会場は東京都が管理する「芝浦水再生センター」のリ
ニューアルに併せ、施設の上部空間を有効利用する計画に
より2015年に出来た建物となっております。会場使用料
は東京都下水道局の収入にもなる仕組みと伺っており、下
水道ビジネスへの貢献の意味も込めて選定をさせて頂いて
おりますので、みなさまにもご紹介させて頂きます。